

主要コンテナ航路の荷動き動向（速報値※）

（公財）日本海事センター・企画研究部

（公財）日本海事センター・企画研究部は、PIERS（Port of Import/Export Reporting Service）の統計データを基に、『日本・アジア / 米国間のコンテナ貨物の荷動き動向』を毎月発表しております。それに加えて、欧州航路、日中航路、アジア域内航路の荷動き動向も発表しております。

主要航路の荷動きのポイント

北米航路

往航（2019年1月）1,570,103TEU（4.6%増）（2018年1月：1,501,186TEU）

・《一般電気機器・家財道具で中国発貨物減少、さらなるCHINA+1模索の兆候も》

復航（2018年11月）535,607TEU（10.1%減）（2017年11月：596,000TEU）

・《荷動きは回復気味も西岸港湾混雑の影響が見られ始める》

■ 北米往航（アジアから米国）は、前年比4.6%増で9か月連続のプラス。2019年1月の中国（塩田）-ニューヨーク間の運賃は前年比13.7%増の2,580ドル/TEUで8か月連続のプラス。

■ 北米復航（米国からアジア）は、前年比10.1%減で、2か月ぶりのマイナス。2019年1月のニューヨーク-中国（塩田）間の運賃は前年比5.4%増の780ドル/TEUで7か月連続のプラス。

欧州航路

往航（2018年12月）1,506,161TEU（2.2%増）（2017年12月：1,473,282TEU）

・《1～12月累計では、統計開始以来、最高》

復航（2018年12月）670,565TEU（3.4%減）（2017年12月：694,506TEU）

・《1～12月累計では、昨年の最高値に次ぐもの》

■ 欧州往航（アジアから欧州）は前年比2.2%増で5か月連続のプラス。2019年1月の中国（塩田）-英国（フェリックストウ）間の運賃は、前年比12.7%増の1,330ドル/TEUで5か月連続のプラス。

■ 欧州復航（欧州からアジア）は前年比3.4%減で2か月連続のマイナス。2019年1月の英国（フェリックストウ）-中国（塩田）間の運賃は前年比10.9%減の900ドル/TEUで10か月連続のマイナス。

日中航路

往航（2018年12月）941,330トン（0.1%増）（2017年12月：940,405トン）

復航（2018年12月）1,854,471トン（2.4%減）（2017年12月：1,899,156トン）

■ 日中往航（日本から中国）は、前年比0.1%増で4か月連続のプラス。金額ベースでは前年比8.1%減の7,448億円で3か月ぶりのマイナス。2019年1月の横浜-上海間の運賃は前年比23.7%増の470ドル/TEUで5か月連続のプラス。

■ 日中復航（中国から日本）は、前年比2.4%減で4か月振りのマイナス。金額ベースでは前年比1.0%増の11,415億円で9か月連続のプラス。2019年1月の上海発-横浜向の運賃は前年比3%増の640ドル/TEUで5か月連続のプラス。

アジア域内航路

（2018年12月）3,774,740TEU（10.9%増）（2018年12月：3,403,900TEU）

■ CTS社による集計では、前年比10.9%増となる377.5万TEUで9か月連続のプラス。2019年1月のアジア域内コンテナ運賃指数（US\$/FEU）は前年比4.1%増の822ドル/FEUで10か月振りのプラス。

なお、アジア域内航路を取りまとめているIADAは2018年2月末をもって休止。

注1：速報値ベースでの発表のため、後に修正が加わる場合がある。

注2：日中航路荷動き量は財務省「貿易統計」をもとにした（公財）日本海事センターによるトンベースでの推計。

注3：運賃指数はDrewry, *Container Freight Rate Insight*, 2018に基づく

図 - 1 北米航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: TEU)

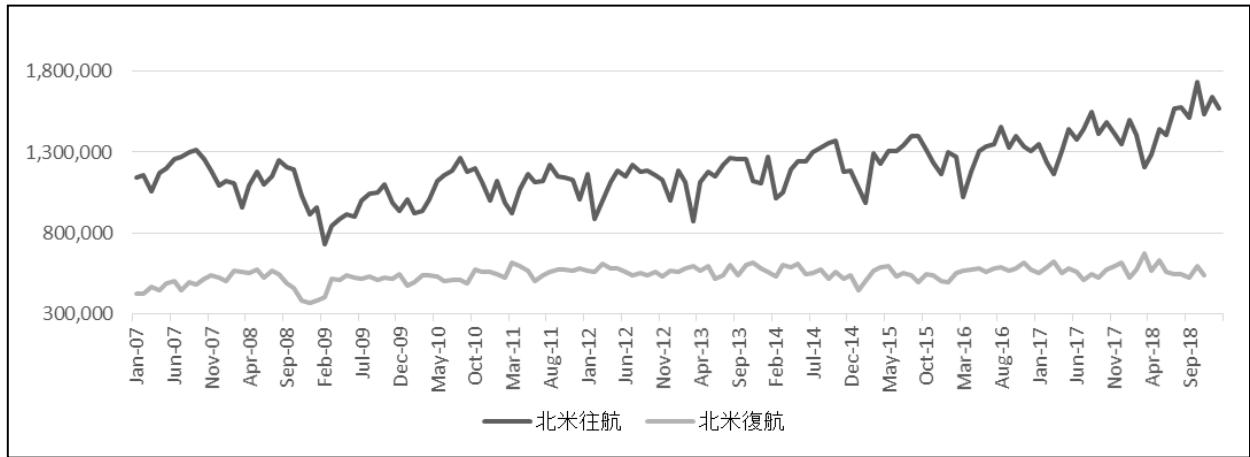


図 - 2 欧州航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: TEU)

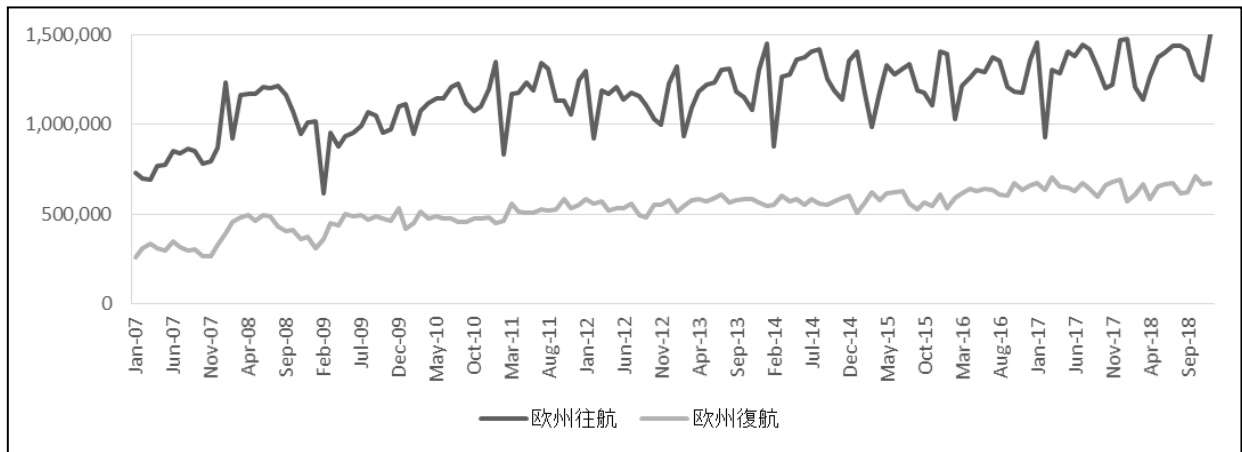


図 - 3 日中航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: トン)

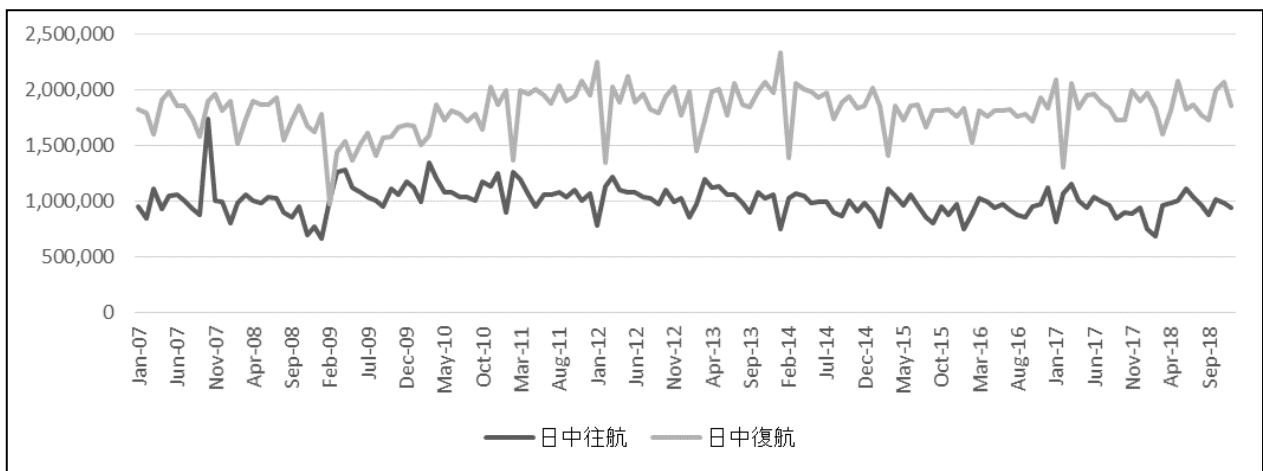


図 - 4 アジア域内航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位 : TEU)

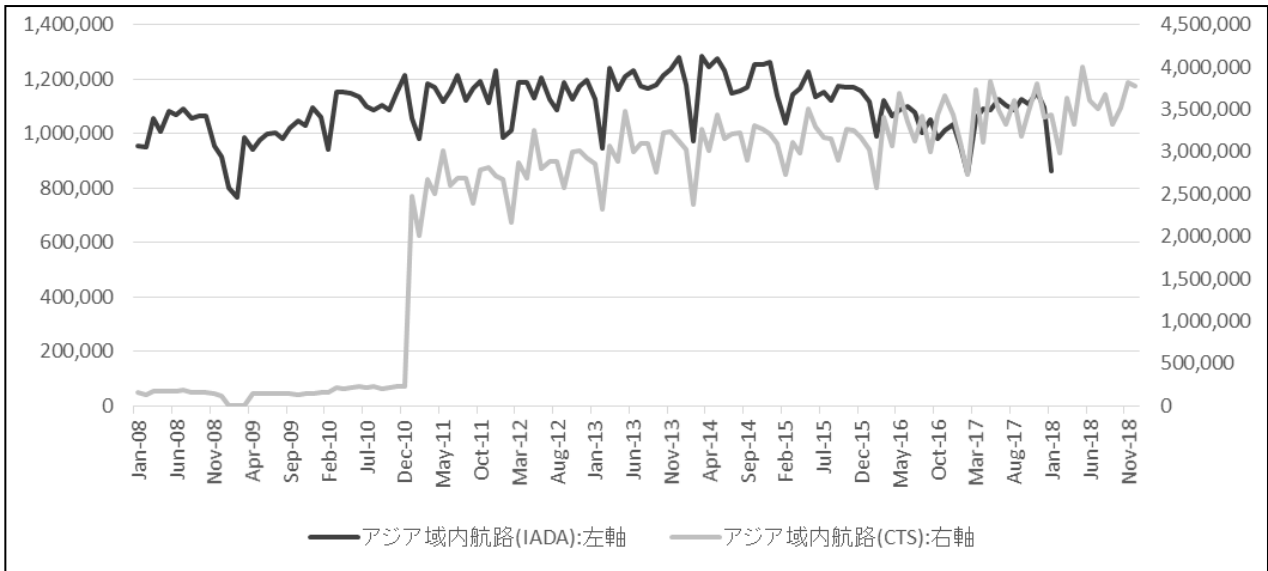


図 - 5 北米航路における運賃指数の推移 (単位 : ドル/TEU)

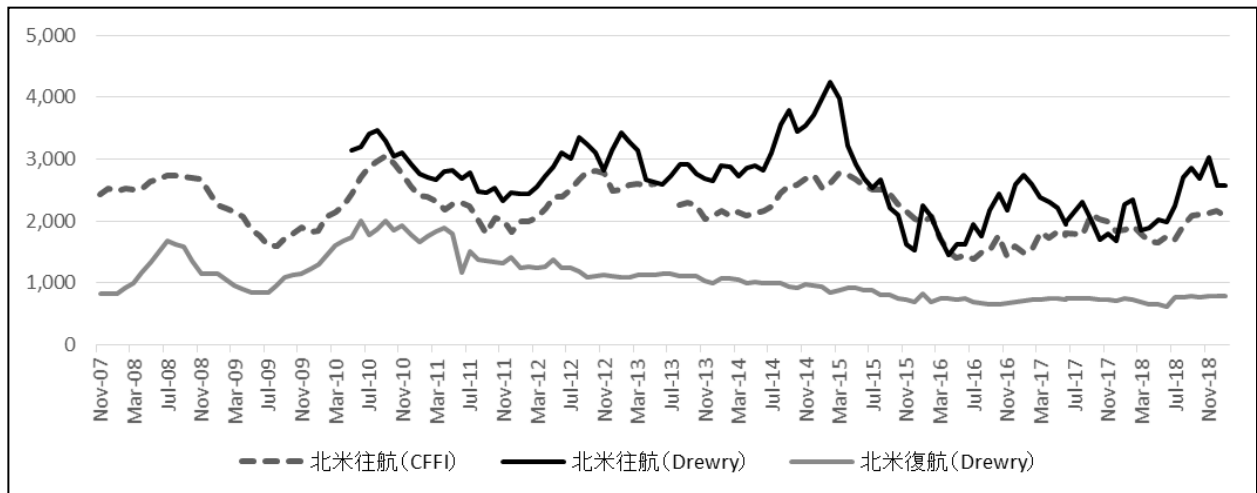


図 - 6 欧州航路における運賃指数の推移 (単位 : ドル/TEU)

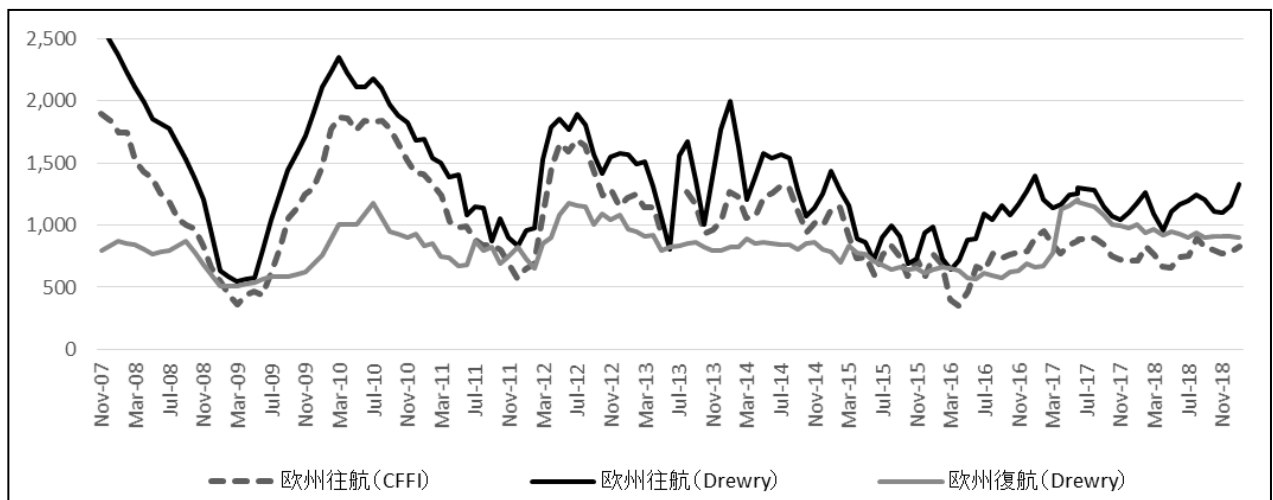
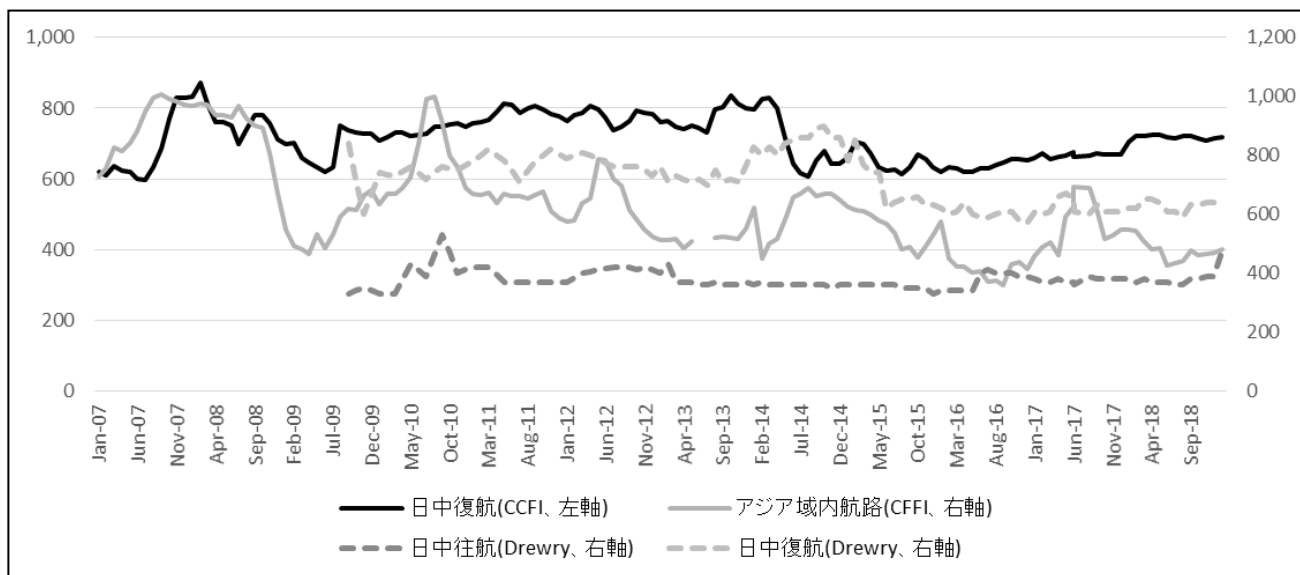


図 - 7 日中航路・アジア域内航路における運賃指数の推移 (単位 : 指数 (左軸)、ドル/TEU (右軸))



(参考) 輸送量・運賃データの出所

- 1.北米航路輸送量 : PIERS (Port Import/Export Reporting Service) データ
- 2.欧州航路輸送量 : Container Trade Statistics Ltd.
- 3.アジア域内航路輸送量 : IADA アジア域内配船主要船社取りまとめデータ、Container Trade Statistics Ltd. (CTS 社)
- 4.日中航路輸送量 (トンベース) : (公財) 日本海事センター企画研究部 (注意 : 財務省貿易統計に基づきトンベースで推計)
- 5.北米航路、欧州航路運賃指数 (往航では (CI,Drewry) と示した列、復航) : Drewry “Container Freight Rate Insight”:南中国 (塩田) と米国東岸 (ニューヨーク)、英国 (フェリックストウ) 間の運賃
- 6.北米航路、欧州航路運賃指数((CCFI) と示した列) : 中国国際海運網ウェブサイト <http://en.shippingchina.com/scfi/index/index.html>
- 7.アジア域内航路運賃指数 (毎月) : 中国国際海運網ウェブサイト (中国・東南アジア間航路の運賃指数) Drewry “Container Freight Rate Insight”:Intra-Asia Freight Rate Index(US\$/FEU)
- 8.日中航路運賃指数 :
 - ・ Clarkson Research “China Intelligence Monthly” (上海航運交易所発表の中国輸出コンテナ運賃指数 ((CCFI) と示した列)) :
 - ・ **Drewry “Container Freight Rate Insight” (中国 (上海) と東京/横浜間の運賃) : 2014 年 4 月発表の資料より変更**
- 9.BDI (バルチック海運指数) :
 - ・ トランプデータサービス "World Maritime Analysis"
- 10.円ドルレート :
 - ・ FRB ウェブサイト <http://www.federalreserve.gov/econresdata/releases/statisticsdata.htm>